

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4691200036
法人名	有限会社 稲満会
事業所名	グループホームうらら
訪問調査日	平成 22 年 2 月 17 日
評価確定日	平成 22 年 3 月 29 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

事業所番号	4691200036
法人名	有限会社 稲満会
事業所名	グループホーム うらら
所在地	鹿児島県霧島市国分下井2988番地 (電話) 0995-46-1778

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号		
訪問調査日	平成22年2月17日	評価確定日	平成22年3月29日

【情報提供票より】(平成22年1月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 9.4 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円(水道光熱費)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(1月13日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90.9 歳	最低	83 歳	最高	105 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	隼人温泉病院 ・ 田中内科消化器科 ・ 宮崎歯科
---------	--------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道10号線より海岸に少し入った田園地帯に建つホームは、広々とした敷地から桜島が眺められ自然豊かな所である。木の香りを感じる広く大きな玄関を入ると、デイサービスとグループホームに分かれている。施設長が「ここにいる時は、うらかな気持ちでいてほしい」という思いでうららと名づけている。脳の活性化を図るレクリエーションを取り入れ、看護師の職員を配置し医療連携体制も整え、利用者、家族の安心感を得ていると共に、職員は利用者を家族の一員という気持ちで支援している。開設から3年目を迎え、地域にも周知され、関わりも深まりつつあり今後は楽しいホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は理念の共有と日々の取り組みで、今までの理念に地域密着を意識した文言を加え、生活場面で理念を意識できるように玄関やホールに掲げ確認している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が、毎日のミーティングで職員から聞き取った内容を記入し職員に確認しながらまとめている。職員は日頃の介護の振り返りとし、第三者からの目を通してもらう必要性を認識している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は定期的に、利用者、参加利用者の家族、公民館長、民生委員、老人会長、市職員、包括職員が参加し開催している。利用者状況、活動状況、事故報告などの後に、参加者の意見交換を行っている。地域との交流についてのアドバイスを頂いたり、市から福祉情報、地域の行事予定を得ることでサービスに活かせるように取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年2回の家族会、運営推進会議、意見箱などで家族が意見や苦情を表せる機会を作っているが、面会時に個々に対応し要望や意見を聞くことが殆どであるため、運営に関する意見も頂けるように伝えている。利用者の病院受診や薬に関する意見や要望を聞いた場合は、申し送りノートに記入し職員は共有している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩に出た時には近所の方と挨拶したり、野菜を頂いたりしている。事業所での敬老会やクリスマス会などに保育園児に歌やお遊戯をしてもらったり、地域の方にも案内を出し参加してもらっている。また、中学校の職場体験や話し相手のボランティアの受け入れなどもしながら地域との交流に努めている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりの生活を尊重しながら、いきがいを見つけめりはりのある生活ができるように、パーソンセンタードケアを念頭においたケアを提供しますというららの理念に、地域の方々と交流を深め親しみのあるホームを目指しますという文言を加え、地域密着型サービスの理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフミーティング等で意識付けを行っているほか、玄関やホールに掲示し、生活場面でも確認できるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、交通安全教室や救急講座の開催の参加を地域に呼びかけ参加してもらったり、敬老会やクリスマス会には、保育園児の参加もある。隣のデイサービスに来られる知人と個人的に交流している方もいたり、デイサービスの方々と行事を一緒に行い交流することもある。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、毎日のミーティングで職員から聞き取った内容を記入し、職員に確認してもらいながらまとめている。職員は日頃の介護の振り返りとし、第三者の目を通してみてもらう必要性を認識している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催し、事業所の利用者状況、活動状況、事故報告後に参加者の意見交換をしている。地域代表から地域との交流についてのアドバイスを頂いたり、市から福祉情報、地域の行事予定などを確認しながらサービスに活かせるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する健康福祉のイベントに参加したり、市と連携し交通安全教室を事業所で開いたり、相談や情報を交換しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	遠方にいる家族がいないため毎月2回以上の面会もあり、面会時に個々の様子や健康状態などを報告すると共に、リビングの壁に掲示板コーナーを作り、日頃の様子を写真に収め掲示している。申請の件や状態変化などその都度電話で連絡している。金銭出納帳も面会時に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会、運営推進会議、意見箱等で家族が意見を表せる機会を作っているが、面会時等で個々に対応し意見や要望を聞くことが多い。運営についてより、個人的な要望が多く、聞いた職員は申し送りノートに記載し共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	デイサービスとの法人内異動は行っていない。離職も少なく馴染みの職員による支援がされている。管理者は、職員の自主性を期待し職員同士で話し合い問題を解決できるようにしている。職員の休みの希望を優先できるように勤務調整には配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験のない新人職員のため、新人研修マニュアル、業務マニュアルを作成し支援が統一できるようにしている。職員は、身体拘束、感染対策、安全対策の委員会に所属し、研修会に参加した時など、事業所内で行う毎月1回の職員会議で伝達講習をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良・伊佐地区グループホーム連絡協議会に加入し、職員交流や研修会、ホームの見学などを行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスや自宅から入居の場合は、本人や家族に必ず見学に来てもらい本人に納得してもらうようになっている。施設や病院からの場合は、訪問して現状を把握し本人との関係を築くようになっている。入居後は、不安にならないように家族の面会を多くしてもらうなどの協力をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と、しぶ柿を切ってつるし柿にしたり、大根を漬物にするなどの共同作業を行いながら教えてもらっている。また、職員の様子を見て考え方のヒントをくれる時や、さりげない支援にも感謝の言葉を忘れない利用者を人生の先輩であると尊敬し支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員に直接思いを伝えられる方もいるが、日常の会話や行動を観察することで意向をくみ取るようになっている。伝えられない方には、職員がアプローチしていくつか選択肢を提示し、自己決定できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員がミーティングや記録で伝えた利用者の気づきと、面会時に本人、家族、計画作成担当者、運営者を交えて開いた担当者会議で家族の意向を聞き、往診時に確認した医師の意見を参考にしながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回はモニタリングを行い検討している。ミーティングで職員に状態変化を確認し、変更の必要性が生じた場合には、その都度見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、看護師による健康管理を行っている他、往診や病院受診の付き添いを行っている。特別外出支援として墓参りや初詣、家族との外出時には車椅子を貸し出すなど柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれが希望するかかりつけ医となっている。かかりつけ医が協力病院になっている方は2週間に1回の往診がある。それ以外の利用者の定期健診は基本的には家族だが都合の悪い場合は職員が付き添っている。適切な医療が受けられるように情報を提供し、変更があった場合には家族に伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについて事業所の対応の指針を作成し、入所時に家族に説明し同意を得ている。まだ、看取りの経験はないが、家族の希望があれば看取りを受け入れる準備はできている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、職員の日常の言葉遣いについて気になることがあった時には個別に指導している他、居室、トイレのドアを不必要に開けないように伝えている。記録物の保管も適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、起床、就寝、食事時間は本人の意向にまかせ対応している。温泉に行きたいと言われた時は、デイサービスの炭酸温泉に連れて行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はそれぞれの力量に合わせ、盛り付けや配膳、下膳、台拭きなどを手伝い、職員と同じテーブルを囲み、語りながら食事を楽しんでいる。また、時々気分転換に外食を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の勤務時間が5段階のため、人員の確保ができる時間帯は、いつでも入れるようにしており、最低でも週3回は支援している。デイサービスの炭酸温泉を希望する方は、デイ終了後に対応している。浴室や脱衣所も広く浴室の床は滑らない材質で、箱庭も見え、利用者はお気に入り楽しみである。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来る事、お盆拭きや床のモップがけ、洗濯物たたみ、洗濯物を配るなどを役割とし、季節毎の行事の他、好きな読書や手工芸、体操、脳活性リハビリのプリント、かるた、すごろくやドライブなどで楽しみ事、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	リビングから続いているウッドデッキには、手作りの大きな椅子とテーブルがあり、外気浴やお茶をしている。また、天気を見ながら車椅子の方も一緒に海岸までの散歩や弁当持参で公園に行ったりといつでも戸外に出かけられるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は開放されており、居室から庭にも出られるようになっている。外出傾向の方の把握はしており、定期的に所在を確認見守りの支援をしている。一人で外出した場合でも、派出所に連絡している他、近隣の方からの協力も得られている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導の下に昼夜想定での消防訓練を行っている。地域の方々には、回覧板で消防訓練の参加の呼びかけをしている。災害時の備蓄はしている。	○	地域に消防訓練参加の呼びかけを行うなど、積極的に地域との関わりを持てるように働きかけているので、もう一步具体的に進めるために、運営推進会議等を通じて、メンバーからの知恵とアイデアを頂き、地域の協力体制が作られることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者の希望を取り入れながら、デイサービスの管理栄養士が立てている。水分は1500ccを目安にして、食事量、水分量とも把握し記録している。毎月1回体重測定を行い、健康状態を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は木材を沢山使い落ち着いたようにしている。天井を高くしており開放感があり明るく、壁紙は消臭素材を使い、居室の隅にも消臭炭を置いて臭いがないように気遣っている。玄関には雛飾り、季節の花が活けられている。台所はアイランドキッチンで利用者の様子もわかり、縁台で洗濯物を畳んだり、ソファでおしゃべりするなど思い思いの場所で過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室から見える庭に花壇を作り楽しめるようにしている。居室ドアに混乱しないように目印を付けている方もいるが、ほとんど名前や飾りを付けていない。ベットは備え付けだが、使い慣れた鏡台、ダンス、座椅子、布団などを持ち込んだ他、ぬいぐるみや家族の写真など大切なものを置いて自分らしい居室としている。		